

その他の危険物、有害物等を起因物（小）とする死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	業種 (小)	事故の 型	労働者 規模
2017	1	9～10	デイサービス利用者の朝の迎え時に利用者本人が自宅の庭にて、ゴミを焼却しており、火の勢いがおさまるのを待ってから利用者を車に乗せようと待機をしていたところ、焼却ゴミ内から爆発音と共にスプレー缶が右手親指に直撃し負傷した。	71	130201	4	30～49
2017	1	1～2	航空機内で、ホットドリンクサービス中に、コーヒーポットで、コーヒーポットの蓋に不具合があり、注ぎ口とは別の空気の穴から熱いコーヒーが出てきて、手の甲にかかり、右手の甲の3分の2を火傷した。	33	40103	11	1～9
2017	1	10～11	工場内で溶解鉄を鋳型に流し込む注湯作業中、溶解鉄の入った湯くみを1度地面に置いた後、もう1度持ち上げようとした際、本人の不注意で隣にあった鋳型にぶつかり湯くみの中の溶解鉄がはね、指と足にかかり火傷を負った。	48	11002	11	1～9
2017	1	10～11	フォークリフトを後進運転している時にお湯（100?）が入ったキャスター付容器と接触し、お湯が長ぐつの両足の中に入り、火傷をした。	24	10103	11	100～299
2017	1	0～1	原材料の搬入投入荷役作業中、作業環境を維持するための集塵機に異常を感知し、調整のため集塵機操作盤において手動で入切を行い自動運転に切り替えたところ、タンク下部の排出口付近で異音が出たため、異物が下部に落ちたと思い、点検口を開け内部を確認し	51	80401	6	10～

			た。すると異物が見えていたので右手で除去したところ、上部から更に異物の塊が落ちてきて、腕が30cm程押し下げられた。その際、タンク下部に設置されている回転物に右手示指と中指の先端が触れ、挫創した。					29
2017	1	20～ 21	スープ製造の骨割工程において、一度取り出したスープをスूपケトル5号機に戻す際、右手首に違和感を感じ、慌てて戻した結果、跳ね返りにより左手首付近、戻す際にこぼれたスープにより胸部から腹部にかけてに火傷を負ってしまった。	18	140201	11	～	10 29
2017	1	17～ 18	3階センター調理ペストリー厨房に於いて、ガス台で調理中の沸騰したシロップを別容器に移す際、シロップがはねて右前腕部と両側内頰に火傷を負った。	22	140101	11	～	500 999
2017	1	21～ 22	キッチンにてフライヤーの油交換後、廃油の入った一斗缶を運んでいた際、床で滑り、一斗缶が傾き、中の廃油が腕にかかる。	45	140201	11	—	
2017	1	10～ 11	調理作業中、2機のフライヤーを連結する器具をはめようとして手が滑り、フライヤーの中に右前腕が入りやけどした。	19	80209	11	—	
2017	1	13～ 14	暖をとるため薪ストーブをしていたところ、ズボンに火の粉が移り、右足のふくらはぎをやけどした。	23	11301	11	1～	9
2017	1	21～ 22	厨房で調理中、材料を倉庫に取りに行っているものと思っていたが、倉庫で倒れている被災者を発見し、救急搬送した。	65	140201	12	1～	9
2017	1	5～6	既存建物の外部タイルの清掃作業中、バケツに洗浄剤を入れナイロンたわしに付けて清掃していたところ、ゴム手袋が破損しているのに気付かず作業を続けて、左手を負傷した。当日は作業を終えてそのまま帰宅したが、左手のひらと指に痛みと腫れがあった。	63	150101	12	～	10 29
2017	2	11～12	洗浄室にてスチームコンベンションのラックの上段を洗っている際、手差し手袋とニトリル手袋は着用していたが、隙間から、油汚れ用の協力的な洗剤が入ってしまった事に気付かず、30分以上放置していたら、右腕が痛みだし右腕肘下の内側に重度3の火傷を負っ	41	80209	12	—	

			た。				
2017	2	10~11	フェノール残液を廃液ドラムに投入する作業をしていた時に、フェノールが付着していた耐酸保護手袋で顔面左頬周辺を無意識に触ってしまった。左眼が霞む状態となった為に、充填所にある洗顔シャワーで水洗いを実施した。	44	40301	12	10 ~ 29
2017	2	16~17	店舗厨房で一斗缶へ廃油する油を移している際、油が溢れてしまい濾過機の吸引口から出た油がかかり、左腕肘より下に10~15cmほどの火傷を負った。	22	80209	11	30 ~ 49
2017	2	8~9	650tダイカストマシンのラドルにコーティング剤を塗る為にラドルを取り外し、コーティング剤を塗って取付け作業をしていた際に、誤ってラドルを溶解炉に落下させてしまった。まだコーティング剤が乾ききっていなかった為にその中に含まれていた水分により、溶解したアルミが飛散し火傷をしてしまった。	35	11102	4	30 ~ 49
2017	2	8~9	バッテリーのプラスマイナスをショートさせた。破裂して破片が顔に当たった。ちょうど近くに被災者がいて気付いたので、本人に大丈夫か確認を取り、消防へ連絡を取り病院を探してもらい緊急で診察してもらった。	74	30106	14	10 ~ 29
2017	2	10~11	当社工場において焼却炉運転中、ゾルバリット補給タンクへゾルバリットを投入する為、はさみで外袋そして中袋のビニールを切って開封した途端、中の薬剤が吹き出し薬剤が右眼に入り負傷した。	44	150102	12	30 ~ 49
2017	2	10~11	資材置場で、造型作業に使用する樹脂を、専用ポリタンクに補充したところ、誤って酸液を補充してしまった。それを台車を使用し、屋外へ運搬している際、薬液同士が膨張し反応熱を持った樹脂が、本人の右手首に飛散し、火傷を負った。	40	11002	11	50 ~ 99
2017	2	9~10	防液堤内の上塗り塗装をするために被災者が掃除機を使用中に不注意で苛性ソーダ貯留槽のドレン管に掃除機を接触させ、亀裂が入り、タンク内の苛性ソーダが噴出し、顔に当たったため眼球内に液が入った。	32	30309	3	10 ~ 29

2017	3	10~11	アンモニアタンクA内で作業員4名+客先1名とMT・内圧を実施中、Bタンクにローリーが果てアンモニアを充填した。充填後にローリーからBタンクへのホース内に残ったアンモニアを希釈槽へ廃棄処理のためパージを実施したところ、希釈槽とAタンク間は配管がつながっており、バルブが閉まっていなかったため、Aタンクの作業員の方に流れ込んだ。客先担当者が全員に退出指示を出したが、マンホールから離れていた2名が目の炎症及び呼吸困難となった。	49	30309	12	10 ~ 29
2017	3	14~15	店舗内の厨房にて、揚げ物中に油に火がついた。消火器を使用して消火にあたった際に、飛び散った油で両腕に火傷した。	29	140309	11	10 ~ 29
2017	3	0~1	店内の片付け時、厨房の中を清掃しており、スタッフが鍋で沸かしていた熱湯を捨てようとしたところ、手をすべらし足にかかり、右足を中心に火傷した。	23	140209	11	10 ~ 29
2017	3	13~14	厨房内にて調理中、揚げたコロッケを油から引き上げるとき、コロッケを油の中に落とし、油がはねて手にかかり、左手の甲全体を火傷した。	49	80209	11	1~ 9
2017	3	8~9	準備の段階で溶融材料を溶融釜に入れて熱を加えて液状にする際に、回転バルブが閉じられていたかPTOスイッチが作動されず、又、釜の中の材料も少なかったことに気付かず、釜の蓋を一気に全開にしてしまい、熱風が顔に当たり火傷をした。	20	30199	11	10 ~ 29
2017	3	9~10	製油所内積場で当該ドライバーが積込作業中、隣の積場で油の抜き取り作業をしていた作業者の手順間違いにより、抜き取り作業用のホースが受入缶より外れてホースが暴れ、積場内に油が飛散し、当該ドライバーの作業服に付着した。また飛散した油の一部が当該ドライバーの左目に飛沫となって入った。	46	40301	12	50 ~ 99
			染料溶解作業を行う際、袋入りの苛性ソーダをタンクに入れる時、				50

2017	3	13~14	右手が滑り苛性ソーダが右手の甲にかかった。作業手順では専用の手袋着用が義務付けられているが、手袋をつけないで作業したため負傷してしまった。	24	10204	12	~ 99
2017	3	8~9	鶏糞場で鶏糞を処理する際、発酵を促し堆肥化し肥料として活用するが、発酵鶏糞をボブキャット（重機）にてかき混ぜる作業に従事する際は、防毒マスクを装着しなければいけないところ、防毒マスク装着を怠り、煙には気をつけていたが風向きの変化に対応できず、発酵熱の煙が右目をかすめた。	29	70101	12	~ 29
2017	4	10~11	おからしぼり機を清掃中、作業中に閉め方のあまかった弁から苛性ソーダが吹きだし、身体にかかってしまった。	43	10109	12	1~ 9
2017	4	15~16	当社作業場にて（陶磁器ガラスゴミ置場）、包丁を踏んでしまい左足底部を負傷した。	45	150102	8	30 ~ 49
2017	4	10~11	本館給湯室で入所者様の飲み物を準備する為にポットからやかんに、お湯を移し替える際、やかんの置き場所が不安定だったので、手を滑らせてしまいやかんが落下し、熱湯が足の甲にかかった。	63	130201	11	100 ~ 299
2017	4	13~14	厨房内のフライヤー近くで調味料の詰め替え中、足がからまり体勢を整えようと足を出した所、フライヤーの清掃で使用した油を抜いて置いていた油缶の中に足を入れてしまった。	68	140209	11	10 ~ 29
2017	4	0~1	20年以上に渡り、アスベストを吸引する可能性がある様々な現場での作業に従事した事により、中皮腫が発症したと思われる。	51	30203	12	30 ~ 49
2017	4	17~18	調理場に於いて天井の換気扇まわりの油拭き清掃作業の為、調理台（75cm）の上に乗って移動しながら作業をしていたところ、火にかけていたラーメンスープの仕込寸胴60L（42×42）の、調理台より10cm位高く出ている蓋に足が当たり、蓋が外れた所に右足が寸胴に入って負傷した。	43	140201	11	1~ 9

2017	4	12～ 13	チャーハンポジションで調理に取りかかる前に、チャーハン用フライパンで鍋を空焼きし油を馴染ませる作業をしていた。左手で鍋を回し、油を鍋全体に広げていたところ、油が飛び出し右手甲の部分から中指までにかけて15cmの範囲で火傷をする。	39	140201	11	10 ～ 29
2017	4	11～ 12	工務用作業場のタンク（苛性ソーダを水で薄め温めたもの）を使って、パン製造用のラックを洗浄しようとした時、タンク内の溶液濃度を高める為、新たに苛性ソーダ（粒状）を補充しようとした時に袋から塊が一気にタンク内に流れ落ちた。溶解熱が発生し瞬間的にタンク内の溶液が噴き上がり、身体に付着し負傷した。	56	10104	11	100 ～ 299
2017	4	11～ 12	コーヒーメーカーに水を入れる前に粉があるか確認しようとパーツを引き抜いた際、フィルターから熱湯がこぼれてかかり、左手の甲を火傷した。	44	80201	11	500 ～ 999
2017	4	15～ 16	夕食用のソフト食を冷凍庫上段で冷やし固めていたが、既に固まっていると思い込み、確認せずにバットを両手で傾けて引き出してしまった。その際、バットの内容物（液体）が両腕にかかり火傷した。	69	80209	11	1～ 9
2017	4	17～ 18	調理場にて揚げ物をしていた際に、誤ってフライヤーの中にカゴが落ちてしまい、フライヤーからはねた油がかかり、右手の人差し指、中指、薬指、小指を熱傷した。	20	140201	11	10 ～ 29
2017	4	9～ 10	回転釜にてお湯を沸かし、沸騰したので別の大鍋にお湯を入れてガス台に持っていきこうとしたら手が滑り、右足首に熱湯がかかった。	52	80209	11	1～ 9
2017	4	18～ 19	味噌汁を作る際に、電源を切らずにだしを入れてしまい、沸騰したお湯が右掌親指付け根と両大腿部にかかり火傷を負う。	16	140201	11	10 ～ 29
2017	4	11～ 12	地すべり工事のためアンカー工事中に、足場上でアンカー材グラウト注入作業が完了する度に足場解体を行っていた。足場解体作業の邪魔になったのでグラウト注入していたホースを移動させようと外した時に、セメントミルクが噴出して顔面（目）を直撃した。	27	30199	12	30 ～ 49

2017	5	13～ 14	勤務先食堂でかけそばを作っている時、手が滑ってつゆの入ったレードルを放してしまい、右足にかかってしまった。	52	140209	2	10 ～ 29
2017	5	16～ 17	ヘルプ勤務中、厨房内で、寸胴を洗う際に強力洗剤の原液を素手で扱い、清掃をしてしまい、右手指を受傷した。怪我をした当初は病院へ行くほどではなく、自分で手当てをしていたが良くならなかった。	43	140201	12	10 ～ 29
2017	5	13～ 14	ダイニングの換気扇をアルカリ性洗剤で洗っていたところ、左目に落下して負傷した。メガネは掛けていたが、隙間から入ってしまった。今後は、ゴーグルを着用して作業する。	30	140101	12	50 ～ 99
2017	5	10～ 11	排水処理施設で苛性ソーダ注入ポンプのエア抜き作業を行っていた際に、空気や液が抜ける部分が目詰まりをし、ナット部分から液漏れを起こし液が右眼に入ってしまった。	46	10104	4	50 ～ 99
2017	5	11～ 12	当社構内で、LPガス貯蔵タンクからバルクローリー車へLPガスを充填する作業を行う際に、タンクからローディングアームを車体へ接続する前に誤って液側バルブを開けてしまい、液体ガスを胸から足にかけて直接浴びて凍傷による火傷を負った。	28	80204	11	10 ～ 29
2017	5	17～ 18	施設内の利用者様の居室で、尿失禁によるオムツ交換の介助をしている時、利用者様の家族が、利用者様の尿が被災者に付着したと思い、被災者の背後から芳香剤のスプレーをかけた直後、気分が悪くなり、状態が悪化して急性薬物中毒の病状を発症した。	35	130201	12	50 ～ 99
2017	5	15～ 16	工場で高温高圧洗浄機を使用して干し網を洗っていた時、右手で持っている手元が狂い、誤って左腕にしぶきがかかり火傷した。	63	10102	11	30 ～ 49
2017	5	0～1	本社2階分析室のレイアウトを変更し、新しい分析台・流し台を導入したあと、その部屋で片付けを含む作業を行っていたときに、のど等に痛みを感じた。その部屋で作業を行うと同じ症状が発生した	45	120109	12	50 ～

			ため、その部屋に出入りする他の社員にも確認したところ、同様の状態の社員がいた。環境改善の施策をいくつか行ったが、症状は改善されず、化学物質過敏症との診断を受けた。				99
2017	5	0～1	本社2階分析室のレイアウトを変更し、新しい分析台・流し台を導入したあと、その部屋で片付けを含む作業を行っていたときに、のど等に痛みを感じた。その部屋で作業を行うと同じ症状が発生したため、その部屋に出入りする他の社員にも確認したところ、同様の状態の社員がいた。環境改善の施策をいくつか行ったが、症状は改善されず、化学物質過敏症との診断を受けた。	43	120109	12	50 ～ 99
2017	5	9～10	当組合工場内でクッカーの点検口の修理をしていたところ、ドレンを抜いていなかった為に熱湯が噴き出し、左腕と左足に熱傷を負った。	68	11709	11	10 ～ 29
2017	5	17～18	厨房でフライヤーの油を交換するために油を寸胴に移動させ、その寸胴を両手で持ち隣のフライヤーに入れる時、左足を滑らせて油が足にかかり、左足の甲、右足首から甲にかけ火傷をした。	28	140301	11	50 ～ 99
2017	6	9～10	既設工場の建物内で左官工事作業中に、他業者（客先業者）工事の為、工場内のタンクドレン排水（約70℃）を行ったところ、放流用の仮設ホースが水圧によって暴れ、ホースの先端近傍で作業していた作業員に排水が当たり、熱傷を負った。	34	30209	11	1～ 9
2017	6	10～11	約400㎡階段状のデッキ部のコンクリート打設中、コンクリートが腰から足部分に掛かってしまった。その後、そのまま作業を継続していたところ、右腕、両足に痛みを感じ、しばらくして確認すると、化学熱傷となっていた。	48	30209	12	10 ～ 29
2017	6	10～11	客室にて客室清掃中、出発済みのお部屋で冷蔵庫に飲み残しのペットボトルがあった。ジャスミン茶のペットボトルであったが、色が黄緑色だったので変だと思い、トイレに流し、水ですすいだ。気になっていたのにペットボトルを捨てずに取っておいた。その後、気に留めず作業をしている中、手に違和感があり見てみると、右手の	40	140101	12	30 ～ 49

			薬指の第1関節と第2関節に赤みがあり、第1関節の上が腫れているように感じた。				
2017	6	3～4	洗浄室で、本来担当する従業員がライン製造の応援を頼まれたので、その代わりにバース（絞り機）洗浄を行っていたところ、熱湯を入れてある容器にバースが当たり、右足脛に熱湯がかかって火傷を負った。	33	170101	11	100 ～ 299
2017	6	3～4	工場1階の器具洗浄室で、バースの洗浄を行っていた。熱湯の入ったカップでバースに熱湯をかけた。湯煎槽の方に戻る時に、カップに残っていた熱湯を右足にかけてしまった。長ぐつは着用していたが、ひも締めを行っていなかった為、長ぐつ内に熱湯が入り、火傷を負ったものである。	33	10104	11	100 ～ 299
2017	6	10～ 11	本社倉庫内（作業場）にて、レンガブロックを作る作業をしている時、セメントの粉が長靴の縁に積もり、それが水で濡れた状態になった。帰宅後に両脚を見ると、長靴の縁の高さで帯状にただれていた。	19	30209	12	10 ～ 29
2017	6	17～ 18	ボルトに塗布する接着剤により、接触性皮膚炎を発症した。	18	170101	12	100 ～ 299
2017	6	19～ 20	ランドリー室で、油落とし用洗剤を小容器から移している際に、本体容器より蛇口が外れ、洗剤液が服の上からかかった。	19	80209	12	30 ～ 49
2017	6	14～ 15	作業員が、アルコール性塗型剤をブッカケ塗型機のタンクに補充する際、毎回周りの火気の有無を確かめてから補充していたが、今回、タンク内のポンプブラケットに穴が空いていたのを知らず、他の従業員がスイッチを入れてしまい、その穴からポンプ内の溶液が飛び、作業員の衣服に付き、その後方で消えていると思った中子にも飛沫し引火し、さらに衣服に着いたアルコールにも引火したと思われる。その際に、左脇腹と腕に火傷を負った。	22	11002	11	10 ～ 29

2017	6	10~ 11	総菜作業場にて、フライヤーで揚げ物を揚げていた時、横に設置してあるバットに置いてあった tong が弾けて油に勢いよく落ち、跳ねた油で右手の甲から肘にかけて火傷した（油170℃）。	58	80201	11	~ 299	100
2017	6	22~ 23	グリドルパッドを用いて、グリル板を磨いている際、グリル板に油をしいて磨き、その残った油をグリドルパッドの下にカウンタークロスを敷いて拭き取っていた。その時、グリドルパッドがホルダーから外れ、同時に高温の油がついたカウンタークロスが捲れ、右手の指にかかり火傷をした。本来ならば、油はしかず、グリル板を拭く際も tong とカウンタークロスで拭くところを、誤った道具と手順を行ったものである。当初、症状は軽かったが、次第に痛みが強くなった。	23	140201	11	~ 29	10
2017	7	10~11	工場内フライヤーラインにて苛性ソーダを用いてラインの洗浄をしていたところ、長ゴム手袋を着用していたが目に見えない小さな穴が開いていたため、中に苛性ソーダが侵入し、薬品火傷を負った。	63	10109	12	~ 99	50
2017	7	17~18	資材置場で手袋をして道具を塩素系の薬品を使い洗浄した。夜になり、手の大部分がかぶれて、左手薬指と人差し指の色が変化してきて、激しい痛みがしてきた。	19	30309	12	9	1~
2017	7	17~18	厨房で料理を運ぶ時にポケットに入れていたハンディー端末機の紐がみそ汁の保温器の蓋のとっ手に引っ掛かり、保温器が床に落ちる際に左足の膝から下にみそ汁がかかり火傷した。	33	140201	11	~ 49	30
2017	7	17~18	団地工場内電解槽に苛性ソーダを投入する作業の際、電解槽が高温状態となっていたことに気がつかず、電解槽液に苛性ソーダを投入した。これにより一層高温となったため電解液が飛散、被災者の全身にかかり受傷したもの。電解槽の高温状態であることを装置が音声にて警告していたが気が付かなかった。	39	11204	12	~ 49	30
2017	7	14~15	施設事務所で移動しているときに、台所の横を通り過ぎようとしたところ他の従業員の持ったポットのふたが外れこぼれた湯が右足に	33	130201	11	~	30

			かかり火傷した。				49
2017	7	11~12	ハクリ清掃作業中ハクリ剤で滑って転倒した。その際頭部を打ちつけた。	58	150101	2	50 ~ 99
2017	7	11~12	回転釜にて、器具の煮沸消毒を行っていた。その時に、ボウルを取り出した際、その中に熱湯が残ったままで、その湯が左足甲にかかり火傷。	47	140201	11	30 ~ 49
2017	7	9~10	17階レストラン厨房に於いて鰻の湯通しをしようとお湯を入れた大きなボールを足元に置き台にのっていけすから鰻を取り出そうとした際、鰻が暴れそれに驚き台から足を踏み外しボールの中に右足を突っ込み火傷した。	30	140101	11	100 ~ 299
2017	7	10~11	厨房内洗い場を移動中、他の従業員が床に流したスープが量も多く勢いもあったため、足元に流れてきて、足にかかり両足首から下部分をスープで火傷した。	18	140201	11	10 ~ 29
2017	7	14~15	4F浴室内で入浴介助業務を終え、更衣室で後片付けをしていた。補充のため中身が半分以上入ったシャンプーボトルを目線より少し上の棚に手を伸ばしボトル上部（ポンプ部分）を持ち取ろうとしたところ、ふたが完全に閉まっていなかったのかポンプからボトル下部（本体部分）が外れ棚から落下、シャンプー液が飛び出し、左目に入った。すぐに水道水で洗浄したが、目が開けられない状態だった。	64	130101	12	100 ~ 299
2017	7	8~9	酷暑の中、ケミカルタンカー造船後のタンク内洗浄を硝酸系薬品を使用して行った。開始後間もなく船の甲板上にて保護具を装着せず換気用ブロワーを作動させたまま、排気装置の設置作業に取りかかったがタンク洗浄により発生した有機ガスが漏れ出し誤って吸い込んでしまった。吸い込みながらも直ちにその場を離れ体調を整えて作業に復帰した。その後の午前中の作業、昼食共に異常はなく午後の作業も多量の汗をかいてはいたが特別変わった様子はなかつ	28	11501	12	30 ~ 49

			た。しかし、帰宿後夜中になって急に具合が悪くなり本人が連絡を取り入院になった。				
2017	7	14~15	電子硝子加工課のエッチングルーム内で、付着したフッ化水素を含むエッチング液を、水槽に入った井水ですすぐ作業をしていた。通常使用している長靴が破れていたため、丈の短い長靴を代用していた事と、保護用の耐酸エプロンの紐をゆるめていた事で両足のカバーができていない状態となり、水槽からこぼれた井水がかかり、災害が発生した。	27	11302	12	10 ~ 29
2017	7	17~18	事業場にてタイヤ部品を加工中、部品が外れて顔面に当たった。	67	80202	15	30 ~ 49
2017	7	14~15	屋根で作業中の作業員が誤って薬品をこぼして、下にいる作業員にかかってしまった。	54	30309	12	1~ 9
2017	7	13~14	工場内のアルミダイカスト鑄造機の横で、鑄造済の製品を鉄カゴに入れた状態で点検・選別作業中に、床が油で汚れた状態であったため、振り向きざまに足が滑って鉄製のカゴに足を取られて転倒し、右足の甲を骨折した。	37	11102	2	30 ~ 49
2017	7	15~16	第一高架橋足場内で剥離剤塗布作業中、板張防護足場内の中段足場にて負傷した。	45	30105	12	10 ~ 29
2017	7	23~24	レストラン店舗内にてクローズ作業中、シンクを洗っていた際に排水口にあったゴミを取ろうとしたところ、割れ物が入っており、左手小指に刺さって切傷を負った。	28	140201	8	30 ~ 49
2017	7	11~12	事業所内の木を剪定した枝を収集車に積み込む作業に従事していた。積み込みのために枝を抱えたとき、半袖の作業服から露出していた腕に枝が触れたことにより、湿疹が出て、そのあと全身に広がった。	39	150109	12	50 ~ 99

2017	7	22～ 23	工場内のアルカリ溶融工程における攪拌槽にて、トラブルが発生し、アルカリ溶融液が攪拌槽の蒸気を抜くための配管内に流入した。配管内にて冷えて固まった溶融液を除去する作業を行っていた際、配管内の固化物を別の容器で受けていたときに、固化しきっていない液部分が固化したものと一緒に容器内に落下してしまい、液が飛散して作業者の顔と首に薬傷を負った。	28	10801	12	50 ～ 99
2017	7	21～ 22	店舗バックにて、肉鍋のタレこし中のタレが入ったサタンの横を通った際に、タレこしのネットに躓き転倒し、その際にサタンのタレがこぼれ、両足首に掛かり火傷を負った。	65	140201	11	10 ～ 29
2017	7	13～ 14	乳酸菌部門パート従業員の被災者が、作業場（調合室）にて、他の従業員が充填機部品を煮沸機で洗浄した後の部品を取り出す作業中、後ろを通りがかった際に、煮沸機の中にあるアルカリ洗浄液が左腕にかかり火傷をした。	33	10101	12	10 ～ 29
2017	7	5～6	被災従業員が、ポテトサラダ用の人参を茹でるため、加熱鍋を使用し、150L程のお湯を沸かしていた際に鍋が少し手前に傾き、左足の長靴の中にお湯が入り、足首から爪先まで火傷を負った。	33	80209	11	300 ～ 499
2017	7	10～ 11	給食の魚フライを大釜で揚げている際、揚げた魚をすくい上げようとしたときに、魚が大釜に落ちて油がはね上がり、手の甲にかかった。	43	120109	11	30 ～ 49
2017	7	20～ 21	厨房から客席へ配膳をする際、厨房からホール入口へのスイングドアを外のスタッフが片手で押さえ、先を譲ってくれた時にバランスを崩し、そのスタッフが片方の手に持っていた調理品が背中にこぼれ火傷を負った。	21	140201	11	10 ～ 29
2017	7	12～ 13	現場にて、タンク洗浄時に、タンク内湯温95℃のお湯にアルカリ性洗剤（薬品）を一度に投入した。その際、お湯が突沸し、身体前面に火傷を負った。	38	10109	12	500 ～ 999
2017	9	11～	本社倉庫内にて、冷却水伝熱管洗浄工具の整備・点検中に、丸めてあったグラスファイバーの先端が勢いよく右目に当たり、右眼球・	59	150101	4	50 ～

		12	脛付近から出血し腫れた。					99
2017	9	16～ 17	工場内洗い場で、土曜日回収分の被洗物が月曜日に仕上げる時、多少臭いが残る為消臭剤（サニタイズ）という抗菌剤を洗濯機に入れようとして誤って足にこぼしてしまった。すぐに水で流せばよかったのだが、自宅に着くまでそのままにしていたので、やけどみたいになり痛くなった。原因は、サンダル履きで作業し長靴を履いていなかった為である。	34	11703	12	～ 29	10
2017	9	9～ 10	午前中に派遣先にて、タマネギのボイル作業中、大きなボイル釜の機械から、茹で上がったタマネギをザルにあげる際、右足を滑らせ、尻もちをついた拍子に、釜に残っていたお湯が手首にかかり、負傷した。	42	170101	11	～ 299	100
2017	9	23～ 24	厨房清掃で、洗剤（ビーバー厨房クリーナー）をスプレー式容器に満タンになるまで補充し、フタを閉めるために床に置いた際、置いた衝撃で液が飛び上がり、左目全体に直撃してしまう。すぐに洗浄し痛みはあったが、予定通り業務を終えて帰宅。後日、白目が損傷していると診断される。	57	150101	12	～ 49	30
2017	9	12～ 13	厨房でコーヒーマーカーに水を注ぎ計量カップをシンクに戻そうとした際、名札がひっかかりコーヒが入った容器が落下し左足脛脛をやけどした。	57	80201	11	～ 999	500
2017	9	11～ 12	社内にてマンホール開閉点検補修作業中、ローラー内部の残圧を抜きマンホールの蓋をチェンブロックにて落下防止し、ボルトを外したところ、ローラーと蓋とパッキンが強固に引っ付いていた為、バールやマイナスドライバーで取り外しを試みた瞬間、蓋が外れ、大量の温水が飛び出し、れ、左手甲に火傷を負い、同じ所にマンホールの蓋があたり皮がはがれた。	62	30301	11	～ 49	30
2017	9	17～ 18	店内調理場において、蒸し器から茶碗蒸しを取り出す際、誤って蒸気で右腕内側を火傷したものである。	65	140201	11	～	30

									49
2017	9	11~ 12	工場にて汚れ落としの酸（ペースト状）を刷毛でステンレスの枠に塗り、歯ブラシを使用し擦るようにして同枠の汚れを落とす作業をした後、酸が両手の平全体に付き腫れた。	46	170209	12			1~ 9
2017	9	18~ 19	厨房で皿洗いをしている時洗剤で手荒れをおこした、軽い手荒れが出だし病院で薬をもらい塗ったり、ゴム手袋をしたり、ゴム手袋も何種類が試したりしたが蒸れたりするので完治まで行かず、小康状態で2年勤務した。しかし、今年夏以降から手荒れが悪化し、数日間の休日で治るかと思ったが治らないまま、勤務を続けた、その後も勤務を続けたが、勤務できないほどひどくなり、病状が改善しない為休んでいる、両手の腫れ、化膿、熱が出た。	20	140201	12			10 ~ 29
2017	9	6~7	厨房内に於いて、朝食用の味噌汁の寸胴を厨房からホールに運んでる際に、まな板を洗った際に誤って排水溝の蓋の上に木を流してしまい、蓋の上が濡れていた為、足を滑らせ味噌汁の寸胴がこぼれてしまい、右の頬、首、左腕の肘辺りに火傷を負った。	18	140201	11			10 ~ 29
2017	10	10~ 11	ドラフト内で薬品を反応させる為にメスフラスコの中に試料、試薬及び溶媒を入れ、加熱反応させた後、少し冷めてからメスフラスコに溶媒を加え、転倒混和させたところ、反応が一気に進みメスフラスコが破裂した。破裂したメスフラスコのガラス破片が飛び散り、ガラス片により怪我をした。	49	10899	4			100 ~ 299
2017	10	17~ 18	弊社取り扱い薬品の製造実験中、切り替え整備中に対象薬品を含んだ汚泥をU字溝より掻き出す作業を行った。その際に、対象薬品が蒸気となって漂い、作業者が負傷した。	50	10801	12			100 ~ 299
2017	10	16~ 17	塗装室の一角にて、スプレーガン塗料缶に塗料を補充し立ち上がった際、ガンの部分と缶の部分が離れ、床面に落下したと同時に塗料が跳ね返り右眼に入る。	62	11702	12			10 ~ 29
2017	10	11~	外来処置室にて、ガス滅菌器撤去中に「カボックスー20」のガス漏れが発生し、呼吸時に吸引し、また液化物を右大腿部付近に被った	63	130101	12			300 ~

		12	ことにより、10分後くらいから中毒症状を発症した。						499
2017	10	9～ 10	工場内にて船体ブロックのキズ埋め溶接作業をしていた時、スパッターが右足太ももに落ち火傷をしそうになったため、スパッターを振り払おうと慌てて右足を上げたところ、右手に持っていた溶接トーチのワイヤーが右ひざに刺さった。	31	11501	11		1～ 9	
2017	11	15～ 16	豚舎消毒の為、豚舎事務所内で消毒薬（グルタプラス）を別容器に移そうとしたところ、消毒薬が少なくなっていた為、覗き込んだところ薬液がはね目に入り炎症を起こした。	59	70101	12		1～ 9	
2017	11	10～ 11	当社において客室清掃作業中であった。ベッドメイキング中でリネン類（シーツ・タオル等）を回収し抱えながら廊下に移しようとして、客室内のお客様の荷物がベッド下に置いてあった事に気が付かず躓いてしまい、体勢を崩して転倒し膝を強打し負傷した。	41	80109	12		30 ～ 49	
2017	11	11～ 12	トラック荷台の荷物を縛るためにロープを掛けて引いたら、外れていて勢いよく後ろの下のブロックに腰を打ってしまった。（置き場での怪我）	29	170101	4		100 ～ 299	
2017	11	7～8	自社工場内にて、洗浄した自動車関連の塗装治具が入ったかごを洗浄用タンクから引き上げようとして、塗装治具が入ったかごに足を掛けた状態でかごにフックを引っ掛けようとした際、バランスを崩し洗浄用タンクに浸かっているかごの中に倒れ込み洗浄液に触れ負傷した。	49	150101	12		10 ～ 29	
2017	11	3～4	作業場で洋菓子をオーブンで焼いている時、オーブンプレートを取り出す際に手に当たり、左手首と右人差し指に火傷をした。	34	170101	11		1～ 9	
2017	11	16～ 17	ざる蕎麦用の竹すのこを煮沸後、熱湯を流す際にエプロンと長靴の隙間から熱湯が入り、足の甲を火傷した。	29	140201	11		10 ～ 29	
			事務所棟において、被災者が比重測定作業中、恒温水槽から樹脂容器（500?）を取り出そうとした時、誤って手が滑り容器が落下し、						50

2017	11	15~ 16	その容器が恒温水槽の枠に当たり、液が飛散し、こぼれた（300?程度）、その際、容器内のアボイド81（水酸化ナトリウム30%相当）の液を顔、首、頭頂部に被液し薬傷を負った。	19	10801	12	~ 99
2017	11	5~6	工場内釜場にて釜に入ったお湯を捨てようとした際に足を滑らせて、捨てようとしたお湯が長靴の中に入り左足に火傷を負った。	30	10109	11	~ 500 999
2017	11	10~ 11	店舗内厨房を移動中、被災者がシンクの側を通りかかった際、（同時、シンクでは店長が鍋からお湯を流そうとしていたが、うっかり鍋を床に落とし、お湯を飛散させてしまう）、そのお湯が右の足首からつま先にかけてかかり、火傷を負ったものである。	18	140209	11	~ 30 49
2017	12	15~16	サッシの中にウレタンを注入する作業中、誤って左手にウレタンを付着させてしまった。付着に気づかず作業を続けた所、社員の方に指摘され、手袋を外したところ、左手指が赤くただれており受傷した。様子を見ていたが痛みがひかず、後日受診した。手袋の掌側はゴム製、甲側は布製であり、布からウレタンが浸透した模様である。	31	170101	12	~ 100 299
2017	12	9~10	チルド棟1階の器具洗浄場付近で、器具洗浄用のRO原液が入ったステン製の洗面器がセットされた台に足をぶつけてしまい、台が揺れ、洗面器に入っていたRO原液が自身の足にかかり被災した。	52	10109	12	~ 500 999
2017	12	15~16	厨房内で、ラーメンスープ用の背脂5kgを20?の熱湯が入った寸胴鍋で温めた後、背脂を鍋から網ですくって攪拌機へ投入する工程で、ガスコンロの中心に鍋が置かれておらず、網ですくううちに鍋がバランスを崩し落下し、鍋の熱湯が右脛・右足甲・左足甲にかかり、やけどをしたものである。当初は軽傷と診断され休業もなかったが、2週間ほど経った後、このやけどが原因で感染症となり、休業に及んだ。医師からは、当初の熱傷の深さがわからなかったとのことである。	31	140201	11	~ 10 29

2017	12	20~21	製造終了後のウイン洗浄時に、液体窒素タンクをウイン設置場所より移動しようとした際、タンクが傾きタンク内に残っていた液体窒素が両手にかかり火傷を負った。	45	10109	12	~ 99	50
2017	12	8~9	運転士は、大掃除作業のため予備タイヤに勤務中、営業所正面入口の風除室内にて、ガラスに残ったセロテープのノリ跡を溶剤を使用して剥がしていたところ、一瞬のめまいによってしゃがみ込んだ体勢からバランスを崩し、前に倒れ込んだ際、ガラスに頭頂部を強打ち負傷したものである。	53	40202	12	~ 299	100
2017	12	14~15	客室の空調より漏水しているとの報告を受け、対応することになった。バルブの交換が必要とのことで、大元のバルブで止水するために閉めたバルブが間違っており、そのあと気がつかずに漏水していたバルブを外したところ、水圧でバルブが飛んだ。咄嗟に、噴出した熱湯を手で止めようとしたため、両手に火傷を負った。	63	140101	11	~ 99	50
2017	12	14~15	店のバックにてチャーハンを作っていたところ、後ろで他のクルーがスープを作るため、雪平鍋に熱湯を入れ、「後ろを通る」と声掛けしながら振り向いた。その際、その声に反応して相手に一步近づいたため衝突し、臀部に火傷を負い、救急搬送された。	21	140201	11	~ 29	10
2017	12	11~12	店舗惣菜作業場において、揚げ物をボウルの中に入れようとしたところ、足を滑らせ、勢いでフライヤーの中に右手が入り、火傷したものである。	62	80209	11	~ 299	100
2017	12	5~6	第4工場FS-9号機のプレコーターでシャットダウンのため、HRサービスタンクのフィルターを交換していたとき、隣に設置されたプライマーサービスタンク付近で音がしたため振り返ったところ、プライマーサービスタンク上部が発火しており、その火に触れて火傷を負った。	37	10805	11	~ 299	100
			当社工場にて年末の大掃除を行っていた。手袋とアームカバーをしてしっかりと防護をし、布たわしに油汚れ落とし洗剤を浸してフライヤーの天井の掃除を行っていた。アームカバーは肘までのものを					50

2017	12	12~13	使用していたが、隙間から液体が浸入したことに気づかなかった。作業後、化学熱傷していることに気づき、すぐに病院へ行った。一度仕事に復帰したものの、後日、皮膚移植が必要となり休業となった。	64	10109	12	~ 99
2017	12	17~18	会社内の作業スペースでドラム缶の切断作業中、ドラム缶の蓋を開けてガス抜き後、ドラム缶を切断しようとプラズマ切断機のトーチスイッチを入れたとき、ドラム缶の蓋の穴から熱風が出てきた。	48	150102	11	1~ 9
2017	12	11~12	納品先の会社にて、木製の同筒形の樽容器に入った漆を運んでいる際、容器から漏れていた漆が作業着や手袋に付着し、両手・両目の皮膚が炎症を起こし、かぶれた。	50	40301	12	~ 29
2017	12	14~15	調理場とホール間のディシャップカウンターにて、鍋焼うどんの配膳作業中、バランスを崩して鍋焼うどんを落とす。そのとき右手と左太ももに高温の出汁がかかり、病院へ救急にて搬送された。	52	140201	11	~ 29
2017	12	13~14	店内キッチンの料理提供台にて、ハンバーグの焼き石を皿にセットしようとしたところ、焼き石の入ったバットが斜めになり、熱い油がたれて右手首・右脇下周辺・腹部にかかり、火傷を負った。	23	140201	11	~ 49

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to : [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_06.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html)